

設定「システム」

Windows 11 の各種設定は、[スタートボタン]から[設定]をクリックして開かれる[設定]画面から行うことができます。ここでは、[設定]のうちの[システム]の設定内容について、その主なものを解説します。

ここでは、一般的なノート PC (15.6 型) の場合で解説します。

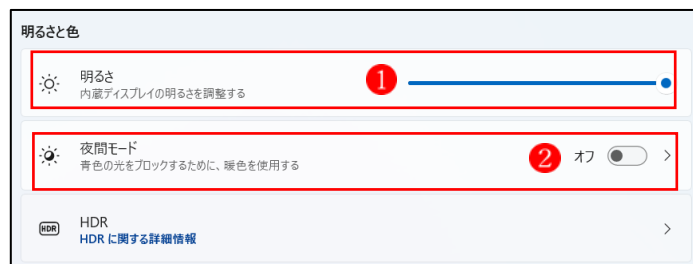


1 ディスプレー

(1) 明るさと色

① 明るさ

画面の[明るさ]を調整します①。



② 夜間モード

青色の光をブロックするために、暖色を使用します②。

→オンにすると、[強さ]③と[夜間モードのスケジュール]④を設定できます。



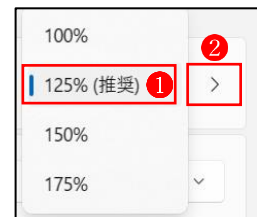
(2) 拡大縮小とレイアウト



① 拡大／縮小

ディスプレイに表示するテキストやアプリのサイズは、100%から175%まで変更可能です。ノート PC では 125%が推奨されています^①。

なお、> ボタン^②をクリックすると、「カスタムスケーリング」という画面が表示され、自由に表示倍率を設定できるようになります^③、デフォルトのままにしておくのが無難です。

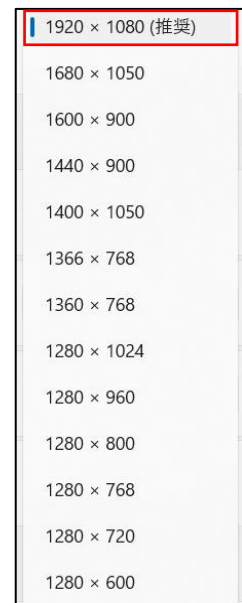


^① 必要な場合以外は、これらの設定を変更しないでください。テキストやアプリを読み取ることができなくなる可能性があります。すべてのディスプレイは、入力したカスタム スケーリング サイズに設定され、元の設定に戻すことが困難になる場合があります。



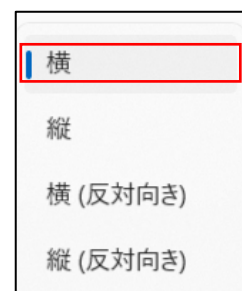
② ディスプレイの解像度

ディスプレイの解像度は、推奨の「1920×1080 (推奨)」に設定しておきましょう。



③ 画面の向き

通常は「横」にしておきます。



④ マルチディスプレイ

2台以上のディスプレイを使って作業をする場合の設定です。

他のディスプレイを接続して使ったり、別の PC にワイアレスで接続して使うことができます。



2 サウンド

音量レベル、出力、入力、サウンドデバイスの設定ができます。

通常は設定を変更する必要はありません。



3 通知

[通知] をオン^①にすると、アプリやその他の送信者からの情報を通知領域に表示してくれます。



①

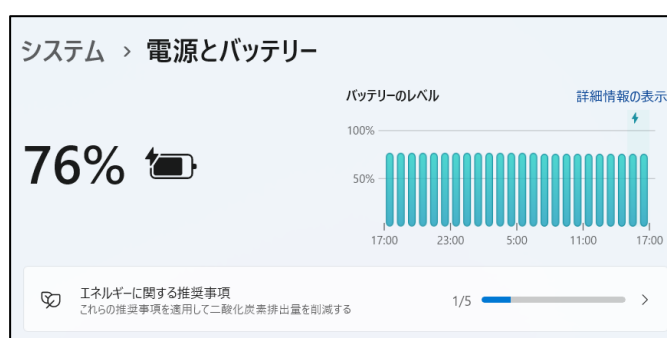
通知を受け取るアプリ等の選択は、下部にある[アプリやその他の送信者からの通知]一覧②で[オン]にすることにより行います。

- 頻繁に通知が来て煩わしく感じられるアプリ等は[オフ]にしておきましょう。



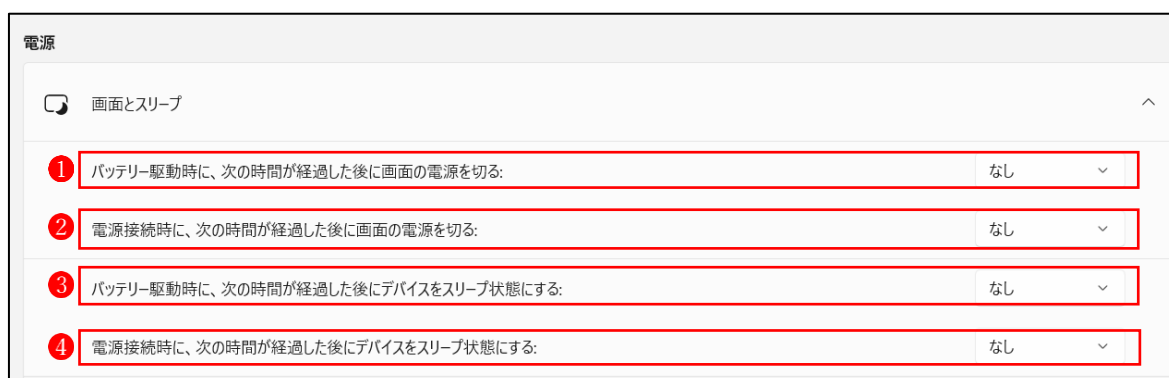
4 電源とバッテリー

ノートパソコンの場合は、電源とバッテリー画面の最上部に[バッテリーのレベル]が表示されています。



【電源】関係

(1) 画面とスリープ



- [バッテリー駆動時に、次の時間が経過した後に画面の電源を切る]①
→設定した時間経過後に画面の電源が切れるので、バッテリー消費の節約になります。
- [電源接続時に、次の時間が経過した後に画面の電源を切る]②
→同上（消費電力の節約になります。）
- [バッテリー駆動時に、次の時間が経過した後にデバイスをスリープ状態にする]③
→設定した時間経過後に画面が消えてパソコンが休止状態になるので、バッテリー消費が大きく下がります。ただし、再び画面を表示するまでに少し時間がかかります。
- [電源接続時に、次の時間が経過した後にデバイスをスリープ状態にする]④
→同上（消費電力の節約になります。）

- ①～④のどれも消費電力を抑えるには有効ですが、「Windows Update」やアプリの操作中に画面が消えたりスリープ状態になったりすることがあるので注意する必要があります。
- バッテリーや消費電力にそれほど気を遣う必要がない場合は、①～④のすべての項目で、「なし」を選択しておくのがよいでしょう。

(2) 電源モード

自分のパソコンの使用状態から考えて、3つの選択肢の中から適当なものに設定しましょう。通常はデフォルトの「バランス」を選んでおきましょう。



【バッテリー】関係

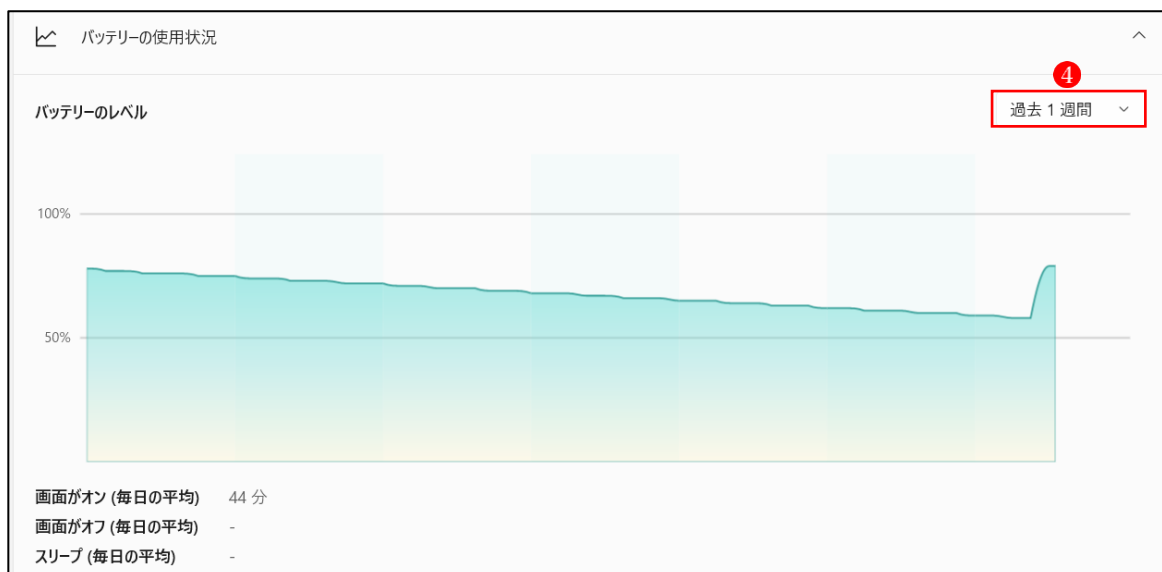
(1) バッテリー節約機能

バッテリー節約機能を設定すると①、バッテリーの残容量が設定値以下になると「画面の明るさを下げる」②ことができます。



(2) バッテリーの使用状況

「バッテリーの使用状況」③をクリックすると、「過去24時間または過去1週間」④の使用状況を表示してくれます。



5 ストレージ

パソコンのストレージ（Cドライブ）の詳細な使用状況を表示してくれます。

① Cドライブの全容量 ② 使用済み容量 ③ 空き容量 ④ 使用済み容量の内訳

システム > ストレージ

ローカル ディスク (C:) - 472 GB ①

159 GB 使用済み ② 313 GB 空き ③

カテゴリ	使用済み容量	全容量
インストールされているアプリ ④	49.4 GB	159 GB 使用済み
ミュージック	38.7 GB	159 GB 使用済み
その他	11.7 GB	159 GB 使用済み
一時ファイル	8.56 GB	159 GB 使用済み
ドキュメント	6.63 GB	159 GB 使用済み

表示するカテゴリを増やす

記憶域の管理

- ストレージ センサー
自動的に空き領域を増やす、一時ファイルを削除する、ローカルで利用可能なクラウド コンテンツを管理する オフ
- クリーンアップ対象候補
5.00 GB 以上のストレージが使用可能です。

6 マルチタスク

「マルチタスク」というのは、デスクトップに複数の画面を開いて作業をすることです。

ここでは、マルチタスクを行う際に作業しやすいように、[ウィンドウのスナップ]方法を次のように設定しておきましょう。

システム > マルチタスク

ウィンドウのスナップ
ウィンドウをスナップして、サイズを自動的に変更して、レイアウトに配置します オン

- ウィンドウをスナップしたときに、その次にスナップする対象を提案する
- ウィンドウの最大化ボタンにカーソルを合わせたときにスナップ レイアウトを表示する
- ウィンドウを画面の上部にドラッグしたときにスナップ レイアウトを表示する
- タスクビューのタスク バー アプリの上にマウス カーソルを移動したとき、そして Alt+Tab を押したときに、スナップしたウィンドウを表示する
- ウィンドウをドラッグしたときに、画面の端までドラッグしなくてもウィンドウをスナップできるようにする

スナップまたは Alt+Tab を押したときにアプリのタブを表示する 最新の 3 つのタブ

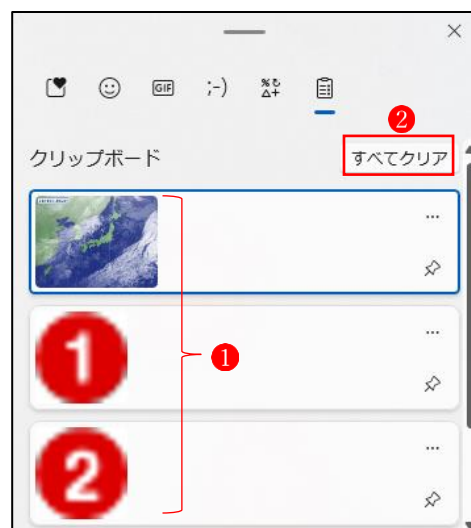
7 クリップボード

Windows でコピーや切り取りを行うとクリップボードにコピーされ、貼り付けることができますが、Word や Excel では、アプリ上に[クリップボード]を表示させておかないと、その効果は次のコピーや切り取りを実行するとなくなります。そういう場合に便利なのが[クリップボードの履歴]という機能です。この機能を[オン]にしておくと、以前にコピーや切り取りをしたデータを呼び出して貼り付けることができます。



【クリップボードの履歴の使い方】

- ① 以前にコピーや切り取りをしたデータをアプリの貼り付けたい場所にカーソルを置き、**[ウィンドウズキー+V]**を押します。
→右のウィンドウが開きます。
- ② [クリップボード]の貼り付けたい項目をクリックします**①**。
- ③ アプリのカーソルのあった位置にデータが貼り付けられます。
- ④ 履歴をすべてクリアしたい場合は、[すべてクリア]**②**をクリックします。



8 バージョン情報

[バージョン情報]をクリックすると、使っているパソコンの詳細な情報が表示されます。

システム > バージョン情報

DESKTOP-3L0TG7M
To Be Filled By O.E.M. この PC の名前を変更

① デバイスの仕様 ①

デバイス名	DESKTOP-3L0TG7M
プロセッサ	Intel(R) Core(TM) i5-10400 CPU @ 2.90GHz 2.90 GHz
実装 RAM	16.0 GB (15.6 GB 使用可能)
デバイス ID	A3CB9BEE-CBE3-4591-A272-FF96590FED43
プロダクト ID	00326-10000-00000-AA326
システムの種類	64 ビット オペレーティング システム、x64 ベース プロセッサ
ペンとタッチ	このディスプレイでは、ペン入力とタッチ入力は利用できません

[関連リンク](#) [ドメインまたはワークグループ](#) [システムの保護](#) [システムの詳細設定](#)

Windows の仕様 ②

エディション	Windows 11 Home
バージョン	23H2
インストール日	2023/12/12
OS ビルド	22631.3958
エクスペリエンス	Windows Feature Experience Pack 1000.22700.1026.0

[Microsoft サービス規約](#)
[Microsoft ソフトウェアライセンス条項](#)

関連

- [プロダクト キーとライセンス認証](#)
プロダクト キーの変更または Windows のエディションをアップグレード >
- [リモート デスクトップ](#)
別のデバイスからこのデバイスを制御 >
- [デバイス マネージャー](#)
プリンターと他のドライバー、ハードウェアのプロパティ ↗
- [BitLocker](#)
データを保護をサポートするためのデバイスの暗号化 ↗

[ヘルプを表示](#)
[フィードバックの送信](#)

- ① [デバイスの仕様]①では、[デバイス名 (パソコンの機種[、[搭載されているプロセッサ (CPU) 名]、[実装されているメモリの容量]などを知ることができます。
- ② [Windows の仕様]②では、[Windows のエディション]、[バージョン]、[インストール日]などが分かります。

9 システムの保護

パソコンは何らかの原因で突然動作不良を起こすことがあります。ソフトウェアをインストールしたり、新しいハードウェアを接続したりした結果、Windows との相性が悪くエラーが頻出して、パソコンの使用に支障が出ることもあります。

「システムの保護」は、そういう時のために[復元ポイント]をあらかじめ作っておき、不具合が発生する以前の状態に戻ることができるようにする機能です。

Windows11 でシステムの保護を有効にして復元ポイントを作る方法について解説します。

(1) システムの保護を有効にする

復元ポイントを作るには、まずシステムの保護を有効にする必要があります。

- ① 「設定」から「バージョン情報」を開き、関連リンクの中にある「システムの保護」**①**をクリックします。

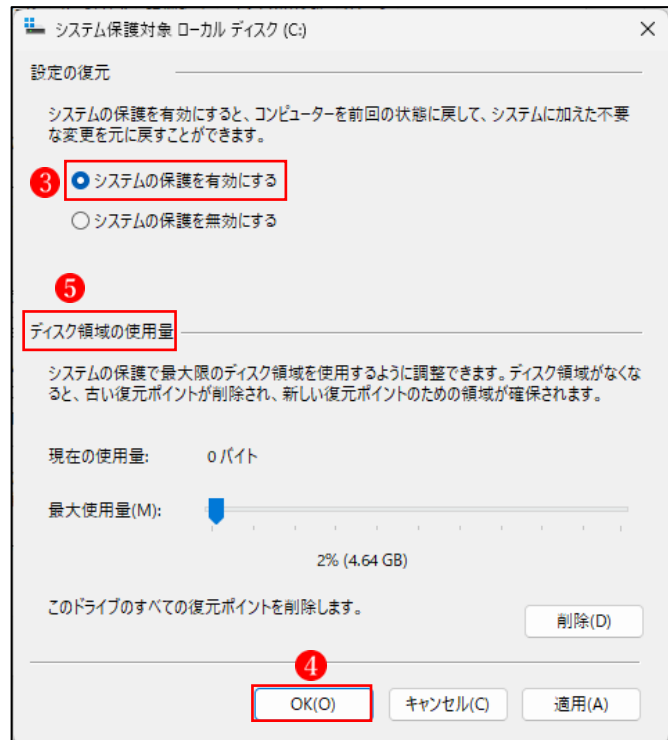


- ② 保護設定の[構成]ボタン**②**を押します。



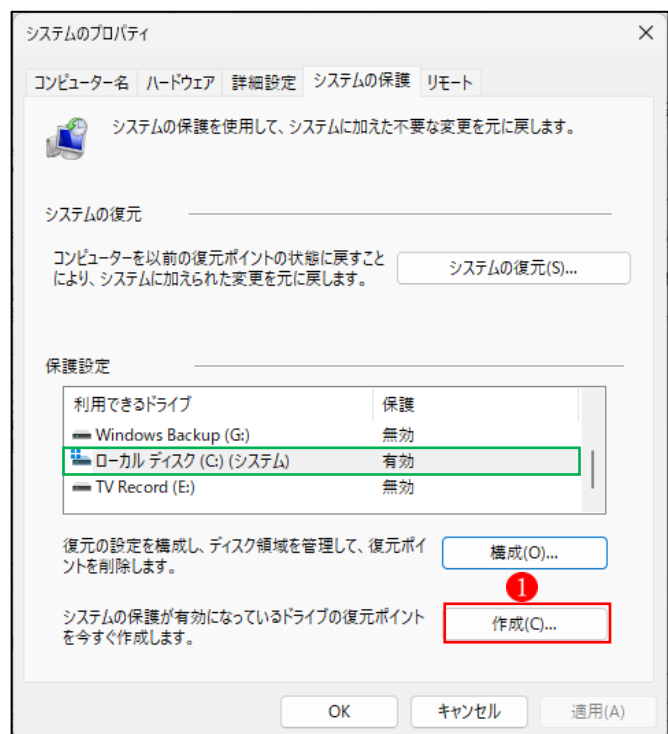
- ③ 「システムの保護を有効にする」^③を選択して「OK」ボタン^④を押します。

★[ディスク領域の使用量]^⑤では、復元ポイントのために使用するストレージの最大使用量を設定できます。最大使用量のスライダーを左右に動かして調整します。最大使用量を上回ると、古い復元ポイントから削除されます。



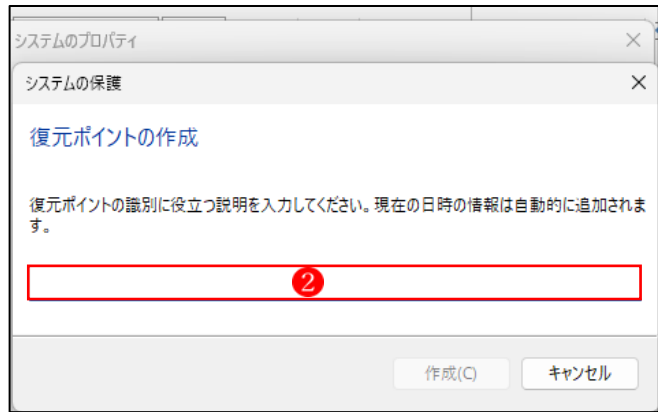
(2) 復元ポイントを作成する

- ① 先程のシステムの保護の画面で、保護設定の「作成」ボタン^①を押します。

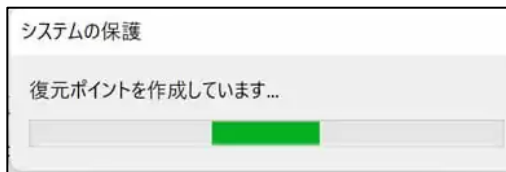


- ② 復元ポイントを作成する今がどう
いう時なのか、わかりやすい説明
を入力します^②。例えば「○○をイ
ンストールする前」などです。

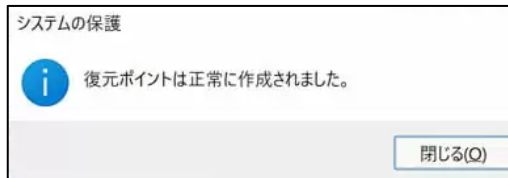
★復元ポイントを作成日時につい
ては自動的に付加されますが、日時
だけではどういう状態だったのか
わからないことがあるためです。



- ③ 復元ポイントの作成が始まります。

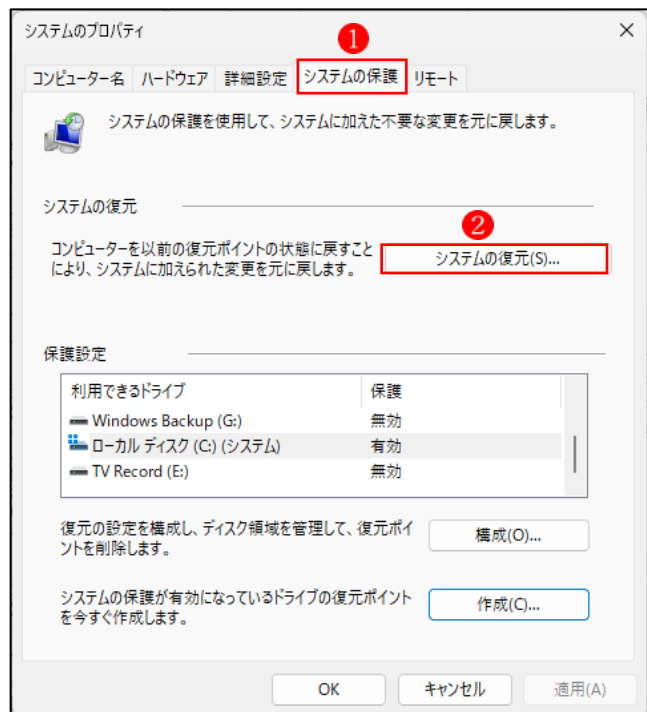


- ④ 「復元ポイントは正常に作成され
ました」と表示されたら完了です。



(3) 復元ポイントを使ってシステムを復元する方法

- ① 「システムの保護」^① のウィンド
ウを表示し、「システムの復元」ボ
タン^②を押します。



- ② システムの復元ウィンドウが開きます。
- システムの復元を実行しても、それまでに作成したファイルは影響を受けません。ただし、インストールしたアプリやハードウェアのドライバは消える可能性があります。

→内容を確認して「次へ」ボタン③を押します。



- ③ どの復元ポイントを使ってシステムを復元するか選択します。

「影響を受けるプログラムの検出」ボタン④を押すと、システムの復元によって消えるソフトウェアやアプリを確認できます。

→復元ポイント⑤を選択して「次へ」ボタン⑥を押します。



- ④ 完了ボタン⑦を押すとシステムの復元が始まり、パソコンが再起動します。



- ⑤ システムの復元が完了すると、次のメッセージが表示されます。
- 「閉じる」ボタン⑧を押して終了します。

